

保護者等向け

児童発達支援評価表

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10				外に遊具があればもっと楽しいと思う
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	8	2			先生の人数が少なく大変な日があった
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境(注1)になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9			1	本人の好きなものをマークしてもらい分かりやすく慣れるのも早かった
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	3	1		希望としては子供用のトイレを設置して座らせる練習などもして欲しい
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(注2)が作成されているか	10				
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9			1	
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	1		2	ずっと活動を見ているわけではないのでわからない部分も多い
	⑧ 活動プログラム(注3)が固定化しないよう工夫されているか	7	2		2	ずっと活動を見ているわけではないのでわからない部分も多い
	⑨ 保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1	2	3	活動する機会はないが、個人で自由に活用させてもらえるのがありがたい。通所をはじめて半年ほどなのでまだその機会が少ない
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10				
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	9			1	
	⑫ 保護者に対して、家庭に戻った時の取り組みなどの助言や支援(注4)が行われているか	6	2		2	送迎の時に話す機会はあるが、定期的に改めて話す機会はあまりない。これからも積極的に色々聞いていきたい。
	⑬ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1		2	気軽に話せる雰囲気があり、ちょっとしたことでも話すことができる
	⑭ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	1		2	
	⑮ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	3			
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	9			1	
⑰ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	1				

	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9				
	⑲	個人情報に十分注意しているか	9				
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか		3	2	5	
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	1	3	4	非常災害の際はどうすれば良いか考えると子どもが心配なことがある
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	10				「明日は通所日かな？」と確認するくらい、とても楽しみにしている
	㉓	事業所の支援に満足しているか	8	2			※

(注1.) 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、自分の場所がわかるように個人のマークがついていたり、1日の予定がわかるようになっていること

(注2. 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

(注3.) 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動の事です。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。

(注4.) 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

(保護者等の皆様へ)

○この児童発達支援評価表は、児童発達センター又は、児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

※ いつも家族のように暖かく皆さんに見守っていただき、感謝している。

子ども自身は楽しんでるのでありがたい。

家庭でもできる支援があれば教えてもらうなど、子どもだけでなく親の支援もしていただけたら嬉しい。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：平成 年 月 日

事業所名

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2		3		子どもの安全性を見直した方が良い
	2 職員の配置数は適切である	1	4			人数の割に職員がすくない、色々な子がきていて1対1で支援できない
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	3			子どもが楽しめる空間にした方が良い
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	2			トイレや道具をしまう空間を工夫した方が良い
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	3	1		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		1		
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		1		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2		1		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2				
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3				
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1	1		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	5				
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		1		
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	1		パートさん14時に帰ってしまう
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5					

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3		1		個人的につながりがある
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	1			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3		1		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	2		色々な子どもたちと交流する機会があると良い、他の施設を見学したい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		3	1		あまりないように感じる
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				保護者同士の交流があると良い
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1				
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2		3		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3		2		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		1		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3		1		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	2	2		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	1		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	1		医師の指示書はもらっていない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	1			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。